

『遠野物語』とその世界観を活かしたまちづくり

—岩手県遠野市を事例として—

大槌 輝

本論文の目的は、岩手県遠野市の語り部などの伝統文化をどのように継承してきたのか、「民話のふるさと」づくりを掲げたまちづくりはどのように行われてきたのかについて調査を行い、考察することである。『遠野物語』とは、柳田國男が記し1910年に発刊した岩手県遠野地方に伝わる説話集のことである。

具体的には、文献調査とインタビュー調査の2つを行った。文献調査では、「民話のふるさと遠野」や、語り部や「馬事文化」などの伝統文化、他の観光地との比較などについて調査を行った。その結果、遠野市の観光のイメージやシステムをつくるために民話や語り部が重要な役割を担ってきたことがわかった。また、伝統文化においては民話や語り部の他にも、「馬事文化」など昔の生活を受け継いだ伝統文化も存在することが明らかになった。

インタビュー調査では、遠野市観光協会へインタビュー調査を依頼し、遠野市の観光業や語り部の活動などを中心に質問した。その結果、語り部活動の他にも、観光施設や観光名所を保存する活動として、「遠野遺産」という活動が行われていることが明らかになった。また、祭りやイベントも多く行われており、神社の例祭などを含めると全部で120前後のイベントが行われているという。この他にも、新型コロナウイルスによる観光業への影響や感染対策について聞くことができた。

以上のことから、遠野のまちづくり政策の1つである民話のまちづくりを行う上で、語り部などの伝統文化の存在が大きく関わっていることが明らかになった。まちづくりにおいても、『遠野物語』が大きく影響しており、「民話のふるさと遠野」が再発見された要因も『遠野物語』という伝統文化が資源として関わっていたからだと考えられる。語り部は、遠野の文化の1つである語りの文化を私たちに伝え、後世に受け継ぐための貴重な存在であることを知った。しかし、遠野市の課題として挙げられていたのは少子化・高齢化社会による後継者不足問題であった。特に語り部については後継者不足が続いている。その対策として、「語り部」1000人プロジェクトや「ふるさと教育」などを通じて若者や子どもたちに昔話を受け継ぐ活動が精力的に行われていることを知ることができた。また、まちづくりにおいては、観光客向けに語り部が昔話を語ることで観光資源を守り、活用することで遠野のまちづくりを行っていることが明らかになった。